

学校法人高松学園
飯田女子短期大学
機関別評価結果

平成 26 年 3 月 13 日
一般財団法人短期大学基準協会

飯田女子短期大学の概要

設置者	学校法人 高松学園
理事長	高松 彰充
学 長	高松 彰充
A L O	近藤 民恵
開設年月日	昭和 42 年 4 月 1 日
所在地	長野県飯田市松尾代田 610

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
家政学科	家政専攻	40
家政学科	生活福祉専攻	40
家政学科	食物栄養専攻	50
幼児教育学科		80
看護学科		60
	合計	270

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	地域看護学専攻	15
専攻科	助産学専攻	5
専攻科	福祉専攻	20
専攻科	養護教育専攻	10
専攻科	幼児教育専攻	10
	合計	60

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

飯田女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 26 年 3 月 13 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 24 年 7 月 11 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は浄土真宗の教えを建学の精神「美しく生きる」とし、各学科・専攻の教育目的・目標が展開されている。平成 25 年度に新学長が就任し、建学の精神に基づき人間教育に重点を置いた教育環境が高められている。

学習成果における量的・質的データを測定する仕組みと、PDCA サイクルによる定期的な点検への取り組みが平成 24 年度から始まり、学習成果を焦点とする査定の確立が進められている。自己点検・評価は、委員会を中心として各学科・専攻、各委員会、事務職員を対象とした勉強会等を通して、全教職員が日常的に関与できる体制となっている。

学位授与の方針は、短期大学としての教育理念を基に、各学科・専攻でそれぞれの学習成果に対応させている。学習成果の獲得に向け、学生便覧及びシラバスの改定が行われ、教育の質保証の充実が図られた。教育課程においては、カリキュラムマップを作成し、学生の学習成果達成の状況把握について学科・専攻内で定期的に話し合う体制が作られている。学習成果の評価方法の検証、基礎教養科目についての学習成果の検討、非常勤教員との連絡会の実施等、教務委員会を中心に協議され、FD 活動による授業改善と合わせて取り組んでいる。

学生への様々な支援はクラスアドバイザーの他、組織的な対応が構築されている。就職支援は学生委員会、学生課、クラスアドバイザーが連携して行い、成果としては、資格職を中心とした高い就職率に表れている。

専任教員の職位及び教員数は短期大学設置基準を満たし、採用・昇格は教員選考規程等に従い行われている。研究活動に関する費用は、学内外の助成制度により獲得しており、研究室と研究日の確保も一応の水準に達している。

寄附行為や就業規則の他、各種の規程はほぼ整備され、規程集により周知されている。FD 活動は、FD 委員会を組織し、月 1 回委員会を開き、審議及び活動を行っている。事務職員は規則に基づいた就業を行い、外部研修や SD 活動を通して、ステップアップ・ブラッシュアップを図っており、学校全体で取り組む姿勢がうかがえる。

校地・校舎、施設・設備等諸条件の整備状況は、広大な校地面積と天然芝のグラウンド、短期大学設置基準の約 3 倍の校舎面積、豊富な図書、雑誌、視聴覚資料を整備した図書館、体育館、講堂、人形劇等上演施設・子育て支援施設・フィットネスルームを備えた地域響流館等を整備し充実している。火災・防災等の危機管理については危機管理委員会を組織し、有事に備えている。

学内 15 教室には液晶プロジェクタが常設され、教員はタブレットパソコン・ノートパソコン・デジタルカメラ・デジタルビデオ等を使用して、資料展示をするなどの授業展開が可能である。また、視聴覚教室にはデジタル OHC があり、多様なメディアに対応している。

法人全体及び短期大学部門で平成 23 年度を除いて帰属収支が支出超過である。人件費比率の改善を中心とした検討が始まっており、中・長期計画を期待したい。教育研究経費比率は適正である。施設設備費や図書費は適正に配分され教育研究環境の整備に努力している。財的資源は適切に管理されている。

学長を兼務する理事長は、建学の精神の教え、教育理念・目的を明確に理解し、短期大学では学長として教授会を招集し、学校運営に関する意思統一や危機意識の共有を図っている。理事長は私立学校法及び寄附行為に基づき理事会を運営し、学校法人の業務を総理している。

ガバナンスについては、監査年間計画に基づいた監査体制や内部監査と相互補完した業務監査、試算表活用による予算統制の実施、評議員会の開催等、適切に運営されている。監事は、寄附行為に基づく監事の職務を行っており、監査報告書を会計年度終了後 2 か月以内に作成し、理事会・評議員会に提出している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 学長自らが建学の精神である「美しく生きる」を基礎教養の必修科目として、全新生を対象に講義するとともに、全学生と教職員が集う週に 1 度のアセンブリアワー等が行われ、学生及び教職員全員が建学の精神を共有して学習成果をあげる体制ができている。

[テーマ C 自己点検・評価]

- 2年に一度自己点検・評価を実施し、その報告書を学内外に公表するとともに、平成23年度には仁愛女子短期大学との相互評価を実施し報告書を公表するなど、積極的に自己点検・評価を行い、教育の継続的な質保証に努めている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 学科・専攻の教育課程についてカリキュラムマップを作成し、教育目標と領域の到達目標が明示され、各科目が教育目標へと積み上がる構成としており、教育の質保証の充実が図られている。

[テーマ B 学生支援]

- SD委員会を設け、事務職員の資質向上に関する事項、事務局の業務・学校運営に関する事項、その他SD活動に関する事項について積極的に活動を実施している。委員会として学生満足度アンケートを実施するなど、学生の要望の把握と学習環境の改善に努めている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 「学内研究集談会」が毎年開催され、研究成果の発表を行うとともに、教員の研究活動についての意見交換の場としている。また、専任職員全員が参加する連続講座を学習会として開催し、発表、輪読、意見交換等を通して事務職員の資質向上が図られている。

[テーマ B 物的資源]

- 校地面積、短期大学設置基準の約3倍にあたる校舎面積、更に天然芝のグラウンド、アカシアホール（人形劇等上演施設）・わいわいルーム（子育て支援施設）・フィットネスルームを備えた地域響流館があり、物的資源として十分に整備、活用されている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 卒業生の就職先への調査については、平成23年度より学生委員会で検討しているが未だ実施に至っていない、また、卒業生アンケートについてもデータが少なく活

用できていないため、学生の卒業後評価の計画と実施が望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ D 財的資源]

- 財政上の安定を確保するために、短期大学部門及び法人全体の人件費比率の改善、看護学科の休・退学率の改善、幼児教育学科の入学定員充足率の改善、専攻科の見直し等を含めた中・長期計画策定の検討が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

浄土真宗の教えを建学の精神「美しく生きる」とし、開学当初から明確に示している。これを基に教育理念及び各学科・専攻の教育目標が展開されている。建学の精神については、学長の講義科目「美しく生きる」、入学式や卒業式、開学記念行事、オープンキャンパス、週に一度のアセンブリアワー、年に一度の釈尊降誕会や報恩講をはじめとした宗教行事等を通して、学生と教職員で共有している。それらは学生便覧や学校案内等に記載され、印刷物やウェブサイトでも学内外に発信されている。

学習成果については、建学の精神及び各学科・専攻課程の教育目標に明確に示している。教育の質保証に向け、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更等をその都度適宜確認し法令順守に努めている。また、教育の質保証のために、教員が授業形態に則した授業方法の開発や公正な授業評価を行い、授業に対して真摯な取り組みが行われている。平成 23 年度から平成 24 年度にかけて教務委員会及び FD 委員会を中心に、学習成果及びその測定の仕組み、PDCA サイクルの設定についての取り組みがはじめられている。

自己点検・評価は、委員会を中心として各学科・専攻、各委員会、事務職員を対象とした勉強会等を通して、全教職員が日常的に関与できる体制となっている。自己点検・評価の定期的な実施については、2 年に一度自己点検・評価報告書をウェブサイトに公表している。平成 23 年度には仁愛女子短期大学との相互評価を行い、本協会及び当該短期大学のウェブサイトで報告書を公表している。平成 24 年度には、平成 25 年度の認証評価に向けて組織的な取り組みが実施されている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

平成 23 年度から平成 24 年度にかけて、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針が整備され、学習成果を軸にした教育課程の実施への動きがスタートしている。

学位授与の方針は、短期大学としての教育理念を基に、各学科・専攻でそれぞれの学習成果に対応させている。就職率の高さから社会的に通用性があると判断できる。

各学科・専攻の教育課程においては、カリキュラムマップを作成し、教育目標と領

域の到達目標を明示し、各科目が教育目標へと積み上がる構成としている。シラバスの改定では、到達目標、準備学習の内容、成績評価の方法及び観点の項目が明示され、教育の質保証の充実が図られている。また、教員間での意思疎通や学生の学習成果達成の状況を総合的に把握し指導が展開できるよう、学科内で定期的に話し合う体制作りを進めている。

入学前の学習成果の把握が確実な指定校推薦等の推薦入試を中心に、学習意欲を重視した AO 入試、目的意識や表現力を判定できる小論文を課題にした社会人・自己推薦入試、それに基礎学力を重視した一般入試を取り入れ、入学者受け入れの方針に合致する幅広い受験生の確保を心がけている。

各学科・専攻の教育目標及び各科目の達成目標は、それぞれの教育の特徴を反映した内容で具体的に示されており、学習成果には具体性がある。量的データの測定としては、成績評価・資格取得率・資格や免許を生かした採用試験受験状況・検定試験合格者数・国家試験合格率、質的データの測定としては、学生の卒業後評価の実施には至っていないものの、学生のレポート、学外に対しての発表会への取り組み等を行っている。

学生の生活支援としては、学生委員会を中心にクラスアドバイザーと学生課が連携し、学生の学園生活の充実に向けて支援を行っている。平成 22 年度に SD 委員会が設けられ、学習成果獲得に向けた支援体制が整えられて、学生満足度調査や学習会等意欲的な取り組みが行われている。

就職支援は学生委員会、学生課、クラスアドバイザーが連携して行っている。資格職を中心に高い就職率が維持されている。卒業生の就職先への調査については、学生委員会で検討しているが未だ実施に至っていない。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

専任教員の職位及び教員数は短期大学設置基準を満たしている。免許・資格関係についても必要に応じ関係監督省庁の承認を得ており、適切に教員組織を編成している。

専任教員の研究活動に関する費用としては、個人研究費や学内共同研究費助成等が支給され、学外からの研究費は、科学研究費補助金等を毎年 1～2 件獲得している。研究室は一部共同研究室であるが個人研究室を基本としている。研究日は、授業のない日を週 1 日分設定することで対応している。毎年「飯田女子短期大学紀要」の発行と、教職員が様々な分野の研究をしながら相互に連携できるように「学内研究集談会」が開催されている。

FD 委員会を組織し、月 1 回委員会が開かれ、教員の教育活動及び授業方法の改善について、審議及び活動を行っている。事務職員は規則に基づいた就業を行い、外部研修や SD 活動を通して、ステップアップ・ブラッシュアップをしている。

61,364 m²という広大な校地面積を有し、校舎面積は短期大学設置基準の約 3 倍である。天然芝のグラウンド、校舎、体育館、講堂、人形劇等上演施設・子育て支援施設・フィットネスルームを備えた地域響流館等があり、校地・校舎、施設・設備等諸条件の整備状況は適切である。各学科・専攻に必要な実習室、実験室等が配置され、設備

備品等についても整備されている。図書館には、収容定員数の約 20 パーセントの人数を収容できる座席、学生の自習スペース、豊富な図書、雑誌、視聴覚資料を整備している。

危機管理委員会を組織し、危機管理に関する基本方針、ガイドライン、個別マニュアルが整備され、周知徹底は防災訓練を通して行われている。

学内 15 教室には液晶プロジェクタが常設され、教員はタブレットパソコン・ノートパソコン・デジタルカメラ・デジタルビデオ等を使用して、資料提示をするなどの授業展開が可能である。また、視聴覚教室にはデジタル OHC があり、多様なメディアに対応している。

法人全体及び短期大学部門で平成 23 年度を除いて帰属収支が支出超過である。人件費比率の改善を中心とした検討が始まっており、中・長期計画を期待したい。教育研究経費比率は適正である。施設設備費や図書費は適正に配分され教育研究環境の整備に努力している。財的資源は適切に管理されている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、建学の精神及びそれにかかわる教育理念・目的を明確に理解し、学園の発展に尽力している。当該短期大学の置かれている現状や取り巻く環境の変化等について、教授会等で全教職員に伝え、危機意識の共有と意思統一を図っている。また、法令や寄附行為に基づき理事会を学校法人の意思決定機関として適切に運営し、学校法人の業務を総理している。

学長は、学則及び教授会規程に従って教授会を審議機関として適切に運営している。教授会では、教育研究上の議案のみならず、短期大学運営に必要な議案の審議も行っている。また、教育上必要な委員会を設置し、設置規程等に基づいて適切に運営している。

監事は、寄附行為に基づく監事の職務を行っている。報告時には監査に基づく監事意見を述べ、理事会においては、財務健全化に向けての中・長期計画策定の必要性を述べている。監事業務の重要性を認識し、文部科学省主催の学校法人監事研修会への参加や公認会計士との情報交換や勉強会等に参加している。監査報告書を会計年度終了後 2 か月以内に作成し、理事会・評議員会に提出している。

評議員は寄附行為に従って選任され、評議員会は寄附行為に基づいて適切に運営されている。

事業計画、予算計画は部門ごとに策定し、それを集約して評議員会・理事会の承認決定後執行されている。日常の予算執行は、各部門において事務長を責任者に適正に行われている。全ての予算執行に理事長決裁を経ており事業計画、予算計画に沿った執行管理をしている。決算書類は公認会計士と連携して厳正な会計処理、決算処理を励行しており、学校法人の経営状況及び財政状態を適正に表示している。情報公開については、閲覧者やステークホルダーに見やすい公開方法を検討していく予定でいる。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは 4 基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4 基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

地域貢献の取り組みについて

総評

当該短期大学における専門職の養成課程という特色を生かし、それぞれの専門職の学び直しに力を入れ、地域社会に向けた公開講座、出前講座、公開授業が実施されている。

生涯学習センターが公開講座の一部として、管理栄養士国家試験対策講座（全 15 回）、介護福祉士国家試験対策講座（全 19 回）等を開催している。また、地域のニーズが高い介護職を対象とした学び直しを継続的に実施するために、厚生労働省の補助金対象事業である「キャリア形成訪問指導事業」を実施した。研修に対する満足度は「非常に満足した」が 43 パーセント、「満足した」が 49 パーセントという高い数値を示している。

また、飯田下伊那地域における産学官連携の下で、健康長寿社会を支える地域産業の創造を目的とした飯田メディカルバイオクラスターへの参加、長野県地域産業活性化事業では、茅野商工会議所と連携して「高蛋白質・高食物繊維そば粉を用いた機能性食品の市場調査・製品開発」への取り組み等、積極的に産学官連携を進め、地域産業の発展にも尽力している。

学生のボランティア活動も盛んであり、ボランティアクラブが、近隣の知的障がい者更生施設職員と当該短期大学の教員・学生とが協力して取り組んでいる「スペシャルオリンピックス日本・長野いいだ」での活動、茶道部による飯田市座光寺で桜の時期に行われる「桜まつり」での野点のボランティア活動、養護教諭を目指している家政学科家政専攻保健養護コースの有志学生が地域の中学校において、不登校傾向のある生徒への支援ボランティアを行っているみどりの会の活動、地域の献血運動の推進及び活性化に貢献することを目的とした救血機クラブの活動等、教職員及び学生が協力してボランティア活動を地域社会の中で積極的に実施している。

以上のように飯田下伊那地方（南信州）唯一の高等教育機関として行政との連携を密にしながら、生涯学習、地域文化・産業の振興、健康、福祉、地域医療、自然、環境に関すること等、地域と共に相互の発展のために人的、知的資源の積極的な交流や多様な分野での連携、協力がなされ、教育による人材の育成によって多大な貢献をし

ている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 平成 24 年度から出前講座（飯田下伊那、上伊那地域に講師が出向いて行う）として九つの講座を設定するなど、飯田下伊那地方（南信州）唯一の高等教育機関として、地域への貢献を果たしている。